

開催報告

北大関西同窓会 2025年6月三金会
(2025年6月20日開催)

今回の三金会は、昭和42年工学部建築学科ご卒業(昭和44年修士)の伊藤靖久さんから、「人口問題から透けて見える日本の近未来 2025年問題～2040年問題の先に見えてくる日本」というタイトルで、ご講演いただきました。

少子高齢化社会の到来

伊藤さんは9年前、「Be ambitious」に、「下流老人考 一億総老後崩壊の衝撃」とのエッセイを投稿され、2025年問題「少子高齢化社会の到来」に警鐘を鳴らされました。正に今がその「2025年」というわけで、ほぼ推測通りの世の中になってきました。更に15年後の「2040年」には、全人口の35%が65歳以上となり、特に「団塊ジュニア」の世代が後期高齢者となり、あらゆるサービス維持が困難な「社会制度の崩壊」の危機が到来します。今回の三金会では、この課題に時の政権は今からどう取り組み、どう乗り越えていくのか？また、私たちは今、孫の世代にどのような責任がとれるのか？ を問題提起されました。

2040年問題を乗り越えた先の日本社会の未来とは？

今回のテーマは、「解」がない、「策」が思いつかない、難しい問題だと思います。伊藤さんは、「企業の生き残り戦略」、「東京一極集中の是正」、「ジェンダー平等の拡大」、「消齡社会(社会的加齡の消失)」、「労働問題(世紀・非正規問題)」、「氷河期世代への対応」、をキーワードにあげられました。私は、伊藤さんが提起された、「無償労働時間が多い」、「研究開発に投資しない」、は、今すぐ改善するために真剣に取り組まなければならないことである、と思いました。

6月三金会は、講師を含めた現地参加が7名、zoomでの参加が3名で、コーディネーターとしてはホットなテーマだと思ったのですが、参加者が少ない結果になってしまいました。三金会の魅力を的確に広くお伝えすることができなかったこと、反省しています。伊藤さんは「これではヤバイよ」とたくさんの問題提起をされましたが、時間がありませんでした。運営に問題もあったかと思います。改善します。

